

トルコ中銀総裁の解任について

アーバル総裁の解任でトルコ・リラは急落

2021年3月23日

次回4月15日の金融政策決定会合が重要に

トルコのエルドアン大統領は3月20日（現地、以下同様）、トルコ中央銀行のアーバル総裁を解任し、後任にカブジュオール氏を起用すると発表しました。アーバル氏は昨年11月に総裁に就任して以降、5カ月足らずで政策金利を8.75%ポイント引き上げるなど、インフレ抑制に向けて積極的な金融引き締め策を実施してきました。このため市場参加者の中銀に対する信認は高まり、この間、トルコ・リラも対円で20%超上昇していましたが、総裁の交代でインフレが抑制できていないにもかかわらず緩和的な金融政策運営に転換するとの懸念が台頭し、週明け22日にリラは対円で7%超下落しました。

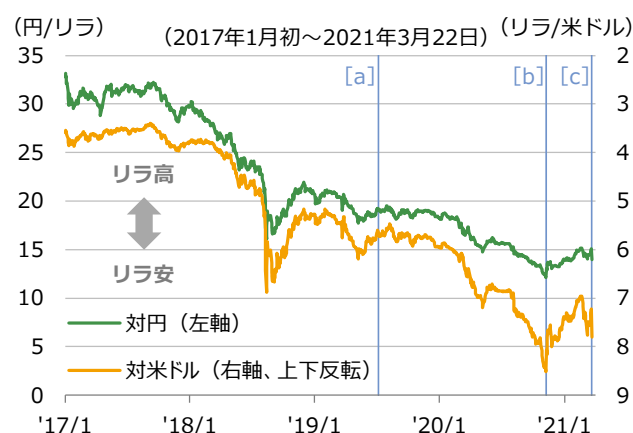
中銀総裁の解任は過去2年で3回目です。2019年7月に利下げに消極的だったチェティンカヤ総裁が解任された時、及び2020年11月に利上げに消極的だったウイサル総裁が解任された時と比較すると、今回は前者に近い状況と言えます。チェティンカヤ総裁が解任された時は、通貨安は一時的で、利下げを進める中でも新型コロナウイルス問題が深刻化するまでリラは底堅く推移しました。当時は①インフレ率が鈍化傾向、②後任のウイサル新総裁は1週間物レポ金利がインフレ率を上回る範囲内で利下げを実施、③経常収支が黒字基調、という特徴がありました。カブジュオール新総裁の方針にもよりますが、現在はインフレ率のピークアウトがまだ確認できておらず、経常収支も赤字が続いているため、リラを取り巻く環境は当時よりも悪く、通貨安圧力がかかりやすい状況である点に注意が必要です。

カブジュオール新総裁は3月21日に声明を出し、臨時の金融政策決定会合は開催しない旨を表明していますので、まずは次回4月15日の定例会合でどのような決定が下されるか注目されます。

政策金利とインフレ率



トルコ・リラの対円・対米ドルレート



※2つのグラフ中にある各縦棒はいずれも、[a] チェティンカヤ総裁解任日（2019年7月6日）、[b] ウイサル総裁解任日（2020年11月7日）、[c] アーバル総裁解任日（2021年3月20日）を示しています。

(出所) ブルームバーグ、各種報道を基に大和アセットマネジメント作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。